

2025年1月社会科授業づくり講座 感想まとめ

(1) 講師より

今回は、私の授業実践を多くの皆さんに聞いていただくという貴重な機会を設けていただき、ありがとうございました。

報告をしてみて3つの点を参加者の皆さんと一緒に考えることができたのではないかと思います。

1つ目は、未来の主権者を育むということです。報告のタイトルでもある「核の問題にどのように立ち向かうのか」という未来への課題について、高校生が被爆者の体験に思いをめぐらせ、核に関する様々な資料を読み、考え、意見交換する学びは、本当の意味での主権者教育であると改めて実感しました。意見交換の方法について、様々な意見をいただいたことも、私の今後の授業づくりに大いに参考になりました。

2つ目は、1つ目に関連して民主主義を育むということです。参加者の方から「生徒が主語の授業」「生徒が受けとめてもらえる安心感がある」といった嬉しいコメントをいただきました。授業を通して多様な意見に触れ、自分の考えを見つめ直し、より良い社会の在り方を考えるという学びは、まさに民主主義の過程(学び)であると改めて実感しました。このような小さいながらも確実な学びを広めていくことが、平和で民主的な社会をつくり出していく力になるのだと思います。

3つ目は、授業のもつ力を私たち教員が信じ、自信をもつということです。今回、絵本の活用など私の授業方法を提示することで、授業の楽しさ、魅力というものに、参加者の皆さんが少しでも気付いてもらえればと思いました。忙しい学校現場ではありますが、「ちょっとした工夫」「ちょっとした遊び心」を授業に取り入れることで、学校が児童生徒だけでなく私たち教員にとっても「楽しい」学びの場になればと思います。

以上、「立派な」ことを書きましたが、報告をすることで私自身が多くのことを学ぶことができました。参加された皆さん、そしてこの講座を企画してくれた皆さんに改めて感謝すると同時に、「たのしくわかる授業づくり」にこれからも励んでいきたいと思っています。

良知 永行

(2) 参加者より(一部を抜粋しております)

1. 良知さんの授業づくり(内容)と方法のどちらもすばらしかったですが、私は今回、特に良知さんの授業の「方法」に惹かれました。

生徒をひきつける、あきさせない、わかりやすい授業であるためには、もちろん内容も大事なのですが、方法にも工夫が必要です。良知さんの授業には、方法の工夫がしっかりあると思いました。

絵本や新聞、クイズを取り入れ生徒の関心をひきつけ、次の展開にもっていく。—特に高校の授業の導入で絵(写真)本を使っていることに新鮮な驚きを感じました。絵本の特性をいかした上手な使い方だと感じました。(絵本はまず注目しやすい。書かれている文章(文)がわかりやすいもの。だから絵本の文章を聞いているだけでも、いろいろ想像しやすい。あとで絵本がまわってきて写真や絵を見ることができるのですから、なおいろいろ想像しやすいと思います。)

展開でも良知さんがすぐに講義してしまうのではなく、学校の生徒にちょうど適したと思われる資料が提示され、それを生徒がワーク(調べたり、整理したり、考えたり)し、そこから良知さんが生徒に問いを発し、さらに考えさせるように授業がつくられています。核の問題をテーマにしている、ともすれば重く暗い雰囲気になりがちだけれど、そうならないような工夫もされている。

そして、最後にまとめる。まとめの時、良知さんは、生徒に個々に文章をかかせることが多いようですが、クラスの生徒にとって色々な意見を知ることができる機会はつくられているのでしょうか？

私は、今日のブレイクアウトルームに分かれての討論で『現実には核抑止論の影響をうけている生徒も核抑止論

は乗り越えたいと考える生徒も両方いると思う。意見が異なっても意見表明しやすい雰囲気を授業の中につくりたい。ただそもそも授業中に声に出して意見表明することは今の高校生にとってハードルが高いだろうから、授業通信などで紙上討論などおこない、それについて次の授業の時に先生がコメントしたらどうか』との意見を出しました。

大変参考になる授業報告をありがとうございました。若手の先生方にも宝の山の報告だったと思います。

2.とにかく生徒が楽しく学べるようにするためにはどうするのかということが一番に考えて、授業を計画されていて、大変参考になりました。一方で、絵本、クイズなど、ただ楽しいで終わってしまいがちな所を、生徒の興味を喚起したり理解を深めたりするような内容が工夫されていることもすばらしいなと思いました。

授業の中では、色付けをするなどの作業が取り入れられていることで、自分の理解や考えを深めることができていたように感じました。発問と作業をセットにすることは自分自身でもよく行うことですが、その1つの方法として、ぜひ取り入れていきたいと思いました。

授業内容や単元計画はもちろんですが、生徒が楽しく学べる授業づくりという視点でたくさんのことを学びことができたと思います。

3. 良知先生、ありがとうございました。

絵本を使ったり、地図や年表を色分けする作業をしたりと、生徒たちが考えるための工夫がたくさんされていて大変勉強になりました。生徒自身の考えもよく書いていてすごいなあと感心させられました。

先生は、生徒たちが成績を気にしているとお話していましたが、写真の様子を見ていると、いろんな意見を出しても大丈夫そうな雰囲気を感じました。核抑止を支持している生徒の意見も聞いてみたいなあとと思いました。

最後のまとめでは、他国や政府に核の恐ろしさを知ってもらいたいといった意見が多くありましたが、今の日本の現状を見ると、日本の国民や身近な人々に伝えるために自分ができていることを考えることも必要なのだろうなと感じました。

大変勉強になりました。ありがとうございました。

4. 良知先生、本日は報告ありがとうございました。高校の歴史総合「21世紀の核問題にどのように立ち向かうのか」という内容で取り組まれ、報告を聞かせていただきながら知的の特別支援学校高等部に所属する自分はどのような授業ができるかを考えました。本校の年間カリキュラムは1週間に社会科の授業が0.5時間。小中学時の学習が積み上げていない。または障がいの理由から理解するのが難しいこともあり、小学校での社会科歴史・公民の知識さえ理解できていない生徒がほとんどです。教科担当制も取っていないので、同じグループを3年間持てることはほとんどなく、自分が担当できるのは1年です。これまでは1年は地理、2年は歴史、3年は公民と分けてはいますが、1学期6時間、2学期7時間、3学期5時間、計18時間で何ができるのかと常に悩んでいます。不易と流行のバランスをとって行っていますが、核についてもなかなか触れられない。触れても1時間で伝えきれなければならないことが本当に難しいです。丁寧に触れれば触れるほど伝えたい部分に触れる時間がなく、コンパクトにすればするほどわからない生徒を置いて行ってしまいます。高等部で社会科の実践をはじめてまだ3年目ですので、今回紹介いただいた内容でより伝わりやすいものを使わせていただき、また実践を考えていきたいです。最後の手紙をしっかりとした手順で送った行動はとても素晴らしい取り組みであると感じました。政治や国レベルの取り組みは、自分とは違う世界で行われているものではなく自分の世界とも繋がっているものであり、バタフライエフェクトのように私たち一人ひとりの行動が重要であると感じることができました。

5. 「授業づくり講座」の名にふさわしく、授業へのヒントがたくさん散りばめられていた報告で、良知さんのお話もとても分かりやすく、参加できて本当に良かったです。

地域に関連づけ、小・中の学習のまとめにもなり、1時間目の授業の伏線を後半の授業で回収もし、証言も聞けて、

「自分も何かできるかな?」と思った頃に「〇〇できる」と案を提示され、さらに他の社会問題(原発事故、イラク戦争など)につながるなど、「すごい授業!」の一言でした。

来年度の公民の授業で活用させていただきます。

良知さん、講座のスタッフのみなさん、ありがとうございました!

6.手を挙げて発表するのが苦手な生徒でも意見交換が出来る工夫や、絵本をはじめとしたとっつきやすい教材の選定など、良知先生の授業はとにかく生徒一人一人の能力を見たうえでの「ハードルの低さ」の設定が上手いと感じました。誰もが授業に参加できる暖かい空間づくりが出来てからこそ、多様な意見を交えた議論の段階へ移行できると思います。しかし、一方で教員が一方的に自分の専門知識をひけらかすような授業とは違い、高校の歴史総合という科目の専門性を損なわず、それでいて全員が参加できるほどハードルの低い授業というのはとても難しいと思います。そうしたハードル下げの上手さに良知さんの教材研究や授業実践の蓄積を感じました。

他人事になってしまいがちな社会科で、いかにそれを生徒の自分事に引き付け、議論し合わせることで将来の主権者たる国民を育成することが社会科の授業のゴールだと、この授業づくり講座に参加して考えました。良知さんはそうした議論までの丁寧な道筋を、様々な手法や技能を交えながら作っていました。私も将来教員として教壇に立った際には、良知さんのようなクラス全員が議論を交わすことで、自分の身の回りから私たちの住む国の進退にまで思いを巡らせてもらえるような授業をつくりたいと思います。

7.先日は授業づくり講座に参加させていただき、ありがとうございました。

発表を通じて、良知先生の核廃絶への強い思いを感じました。

私個人としても、核抑止論といった話もあがる中で、人権を守り、真の平和を実現するために、核の廃絶を発信し続けていきたいと思っています。一方で、「核とどのように向き合うか」という問い、生徒によって様々な答えがあるはずで、生徒がどのように考え、どのような答えを出すのか・・・生徒の生の声は大切にすることが必要だと感じています。生徒の生の声を、願わくば対話に繋げていくことで、より議論が深まると思いました。

良知先生の実践内容や参考文献等を参考にさせていただきながら、私も同様の取り組みに挑戦してみたいと思います。ありがとうございました。

(3) 司会より

今回、初めて社会科授業づくり講座で進行役を務めさせて頂きました。至らぬ点が多々ありましたが、お忙しい中で1月講座にご参加頂いた参加者のみなさまには感謝を申し上げます。ありがとうございました。

歴史総合の中で核の問題を扱うことに難しさもある中で、良知さんの実践は生徒の興味や関心を高めるような工夫がたくさんあり、「私も高校時代にこのような授業を受けたかった!」と思わず感じるほどでした。現代の社会問題に対して根拠を元に自分の考えをもてる主権者を育てる教育が何よりも大切です。小学校教員として、絵本を通して平和教育の実践をおこなうなど、できることを少しずつ実践していきたいと本講座を通して強く感じました。

金子 裕亮